

新しい福島県総合計画に関する
県民等への広報・意見聴取について

1 一般県民対象

(1) ホームページ

計画策定過程を公表するとともに、電子メールによる意見募集を行う。

(2) 「ふくしまの未来を考える」シンポジウム（3地域）

新しい総合計画策定に向けて、県民の意識喚起を図るとともに、参加県民を対象としたアンケート調査や意見交換を実施するため、講演会及びパネルディスカッションを行う。

- ① 郡山市（1／8（木） ビッグパレットふくしま中会議室）
- ② 会津若松市（1／9（金） 会津アピオ展示ホール）
- ③ いわき市（1／15（木） いわきアリオス音楽小ホール）

参加者数：430名（3会場合計）

(3) 「ふくしまの未来を考える」地域懇談会（4地域）

新しい総合計画の策定に当たり、ふくしまの未来について県民と審議会委員の意見交換を行い、新しい総合計画に反映させる。

- ① 県北地域（2／2（月） 道の駅ふくしま東和）
- ② 県中・県南地域（2／2（月） 白河合同庁舎）
- ③ 会津・南会津地域（2／3（火） 下郷ふれあいセンター）
- ④ 相双・いわき地域（2／5（木） 富岡町文化交流センター「学びの森」）

(4) パブリックコメント〔予定〕

中間整理案について、広く県民から意見を募集する。

(5) 地域懇談会②（7地域）〔予定〕

パブリックコメントの一環として、中間整理案の説明、県民と審議会委員の意見交換を行う。

2 児童、生徒、学生対象

(1) 作文コンクールの開催

小学生、中学生を対象に「未来のふくしま」について作文を募集する。

応募総数：1,231作品

(2) アンケート調査

高校生、大学生を対象に、地域に対する愛着、県内への定着意識、本県の将来について希望すること等についてアンケート調査を実施する。

高校生アンケート有効回答者数：1,125人

大学生アンケート回答者数：882人（県内大学794人、県外大学88人）※1月末時点回収数

3 市町村対象

(1) 市町村意見照会①〔予定〕

重点施策の検討にあたり、市町村から意見聴取を行う。

(2) 各市町村長と知事との意見交換〔予定〕

(3) 市町村意見照会②〔予定〕

中間整理案について市町村から意見聴取を行う。

「ふくしまの未来を考える」シンポジウム 意見要旨

○ 全体のイメージ

- ・住まう地域を次世代に損なうことなく、よりすばらしい姿にして引き継ぐこと。
- ・地域の価値・魅力を知り、生かし、発信していくこと。誇りにつながる。
- ・変えるべきでない（大事にし続ける）部分、柔軟に対応する部分の双方の視点が重要（不変を以て万変に应ず、戦略と戦術、トレンド軸と成長軸など）。
- ・農村で生活出来る視点が重要。6次産業化、総合産地化、真の自給率100%へ。
- ・地域の個性を高めるために多文化共生がより重要となる。
- ・七つの生活圏は全国でも貴重な地域政策。地域の個性を高めるためにも当面必要。
- ・豊かな社会とは、住んでいる人が自己実現できる仕掛けが出来ている地域。

1 郡山会場 (1/8 ビックパレットふくしま)

- ・講演者から、地域像、七つの生活圏の継続、地域力・市民力の向上、都市計画の見直し、農林水産業・農山漁村の再生など総合的な問題提起がなされた。
- ・シンポジウム全体としては、鈴木教授が提唱した、次世代に損なうことなく、よりすばらしいものにして引き継ぐことが必要との姿勢が基調となった。

(主な意見)

- ・地域に既にある魅力や価値を見直し、生かすことが重要
- ・次代への継承、需給ひっ迫の観点から農業の重要性
- ・農業・農村の観点から6次産業化が重要、本県のモデルづくりも必要

2 会津若松会場 (1/9 アピオスペース)

- ・講演者からは、「戦略（あまり変えない）と戦術（柔軟に変える）」の重要性、多様化するライフスタイルの対応、福島に育まれた人財・食材の価値向上、地域で継続して事業が営める仕組みなどについて話があった。
- ・全体としては、「地域の価値の確認、自信をもった発信」、「変えてはいけないもの、変えるべきもの（戦略と戦術、不変を以て万変に应ず）」、「多文化共生」「自己実現ができる社会づくり」との姿勢が基調となった。

(主な意見)

- ・地域に既にある魅力や価値を見直し、生かすことが重要
- ・地域の個性を高めるには、多文化共生の考え方が重要
- ・農村の観点からの農業政策・福祉政策が必要

3 いわき会場 (1/15 いわき市アリオス)

- ・講演者からは、「トレンドに惑わされずに安定成長を描くこと、その範囲でトレンドに対応すること」の重要性、無理をせずに地域の人で出来る範囲でやること、多様化するマーケットに機会があること、自信と誇りを持ち、発信することなどについて話があった。
- ・全体としては、福島の有する力を生かした取組みとすること、地域の総合力を高めること（自

給可能な地域を目指す)、地域の誇りを高めること、交流人口が重要となることなどの議論が基調となった。

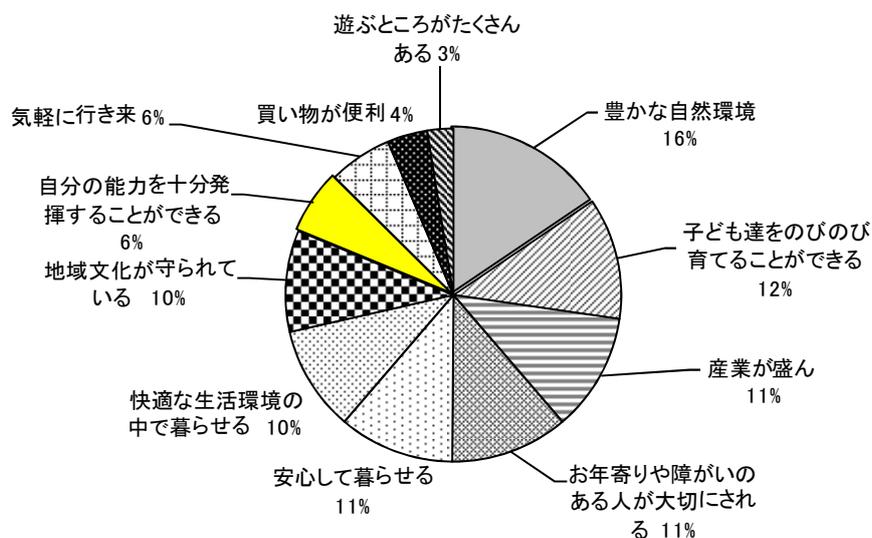
(主な意見)

- ・ 交流人口により定住人口の減少を克服することが可能
- ・ 真に自給自足できる県づくりを目指すべき
- ・ 福島の個性にあった農業（多就業）を展開すべき
- ・ 誇りを持つには自分の地域を知り、知ってもらうこと
- ・ 人材育成、地域活動団体の成長を支援していくことが重要
- ・ 個性ある地域づくりのため、七つの生活圏の考えが重要

○ アンケート結果の概要

- ・ アンケート回収数：201件（回収率 46.7%）
- ・ これから福島県がどのような県になってほしいかということについては、「豊かな自然環境が守られている県」が最も多い。しかし、40～50代の男性の参加者が多かったこともあり、「道路や鉄道などの交通が整備され、どこにでも気軽に行き来できる県」、「若者が多く、遊ぶところがたくさんある県」への要望が少ない。

問 これから福島県はどのような県になってほしいですか？（複数回答可）



豊かな自然環境が守られている県	192
教育環境が整い、子ども達をのびのび育てることができる県	146
産業が盛んで、働く場に恵まれている県	142
福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいのある人が大切にされる県	141
災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる県	138
快適な生活環境の中で暮らせる県	126
祭りや伝統芸能などの地域文化が守られている県	122
自分の能力を十分発揮することができる県	77
道路や鉄道などの交通が整備され、どこにでも気軽に行き来できる県	76
買い物が便利で、市街地に活気のある県	48
若者が多く、遊ぶところがたくさんある県	31

「ふくしまの未来を考える」地域懇談会 意見要旨

○ 全体のイメージ

- ・地域の魅力を住んでいる人が気づけば、その地域に対する誇りにつながる。また、それらの地域資源を積極的にPRすべき。
- ・多様性を尊重しつつ、本県統一のイメージを持つべき。
- ・大人が地域のことを知り、子どもたちに地域の良さを伝えることで、次世代に継承していくべき。
- ・地域を良くするためのリーダー（プロデューサー）の育成、誘致が必要。
- ・地域の人や資源を交流させることによって、よりよいものができる可能性がある。
- ・県民一人ひとりが夢を持てば、地域は変わるのではないか。
- ・農業の重要性が高まるのではないか。また、農業に関心を持ってもらうことが必要。

1 県北地域 (2/2 道の駅ふくしま東和)

- ・製造業の会社を経営しているが、人材の確保と育成が課題である。また、技術開発も課題であり、産学官連携を進めていくべき。
- ・子どもたちは地域の良さを知っているが、それを発揮する場がない。それができれば、地域への愛着が増すのではないか。
- ・地域には素晴らしい資源が眠っており、それを見つければ誇りにつながる。
- ・地域を元気にできるのは農業。小規模の農家が元気になって様々な生産活動に携わってもらうことが、地域の元気につながるのではないか。
- ・地元の人たちが作った食材を子どもたちに食べてもらうことで、食べ物に対する感謝の気持ちにつながるのではないか。
- ・多様性の尊重も大事だが、みんなで一緒にやっていくという意識を育成していくことが重要。
- ・地元の人には、地域の魅力を分かっていない。まず、みんなで探すことから始め、その地域資源をPRしていくべき。
- ・地域を変えていく人が育ってこそ、地域が元気になっていく。
- ・連携も軸がなければうまくいかない。軸となるのは、やはり高齢者と子どもたちをつなぐ現役世代になるのではないか。
- ・「うつくしま、ふくしま。」というキャッチフレーズは、全県的に定着している。多様性の尊重も必要だが、福島県の統一イメージを持たせる必要がある。

2 県中・県南地域 (2/2 白河合同庁舎)

- ・本県は関東地方とつながっており、もっと関東地方と結びつきを深めていく方がよいのではないか。
- ・福島の足りないところを補っていくことも大切だが、良いところを伸ばしていく視点も大切。足下にあるものに気づくことから始めるべきである。
- ・県内だけで食料など全てを賄えるのではないかと感じており、特に食の安全確保など、本県の強みを生かしていくことができるのではないか。

- ・夢を持った子どもたちを育てることが大事。県民一人ひとりが夢を持っていれば、これから地域は変わっていくのではないか。
- ・農業は地味だが、人間にとって不可欠な食をもたらす。産業と見なす味方もあるが、自然と共生するという意味で、工業など他産業と違う視点で見るべき。もっと農業に触れる機会を増やし、農業に関心を持ってもらうことが必要。
- ・「多様性」には、外国人等の多文化共生やユニバーサルデザインの考えも含めてほしい。
- ・地域の様々な取り組みのネットワーク化を図り、支え合いつつ、全体の底上げに結びつけるべき。
- ・子どもたちに素晴らしい経験をさせてあげ、その子どもたちが次の世代を育てるような、そんなつながりが大事である。

3 会津・南会津地域 (2/3 下郷ふれあいセンター)

- ・東京でワークキャンプの集まりに出たが、若い世代が漂流している。地域に人を呼ぶ場合、若い世代に対して最初の就職先として地域を選択してもらうための支援をすべき。
- ・大人向けの環境教育（地域学）を学ぶ機会を提供してほしい。地域を知ること、それを子どもに伝えることで、地域に戻ってくることにつながるのではないか。
- ・田舎にいてもできる可能性があるということを子どもたちに伝えること、また、それをできるようにしていくことが大切。
- ・本県の良さは、自然環境と距離のバランス。首都圏に近い中でもこれだけ環境が守られているのは珍しいのではないか。
- ・ムラの中には教育力があり、ムラで育っていく環境の中で学んできた歴史がある。大人が年中行事を通じて子どもたちに教えていくことが必要。
- ・各地域にある地域資源を地域間で交流させることで付加価値を高めることができるようになる。そうしたネットワークづくりを進めていくべき。
- ・若者が今欲しているのは、お金よりやりがい。社会をよくすることに魅力を感じている。

4 相双・いわき地域 (2/5 富岡町文化交流センター「学びの森」)

- ・福島に来てみて、いろいろな宝物があると感じたが、うまく発信されていない。良いものを発信することで、自然と人に受け入れてもらえるようになるのではないか。
- ・子どもたちの思い出づくりをしてあげること、福島に来た方に良い印象をもってもらうことが、福島に戻ってくる、住むきっかけになるのではないか。
- ・将来像を考える際には、地域のお年寄りにも目を向けるべき。見回りサポーターなど地域の力になっている。お年寄りが元気な地域は、活性化するのではないか。
- ・本県は、水も空気もおいしいが、いつもいいものに触れているからそのことに気づかない。いいものが当たり前にあると思わないことが大事。
- ・地域にはリーダーが必要であり、リーダーの育成が重要。
- ・地域を活性化させるには、プロデューサーが必要。地域にそのような人がいなければ、外部から人を呼び込むことも必要。
- ・県内でも7つの生活圏ごとに個性があるので、地域間で交流すれば地産地消が成り立つのではないか。また、交流し合えば、さらに良いものができるのではないか。

新しい福島県総合計画に関する高校生アンケート調査結果

1 調査の目的

平成22年度にスタートを予定している新しい福島県総合計画の策定にあたり、計画づくりの参考とするため、本県における人口減少の要因の一つである若者の県外流出の要因の把握を中心に、本県の将来を担う高校生に対してアンケート調査を実施した。

2 調査時期

平成20年12月

3 調査対象者

県内の県立、及び私立高校に在学する高校2年生 1,125人

4 調査対象者の抽出方法

県内の高等学校の中から、所在地域の県内バランスや普通科及び専門科等のバランス、地域人口等を考慮して31校を指定し、指定校の2年生1クラスにおいて調査を実施した。

5 調査方法

平成20年12月上旬に指定校31校へアンケート用紙を配布し、調査を依頼。12月中に回収した。

6 主な調査項目

- ・本県のイメージ
- ・自分の住んでいる地域に対する愛着
- ・県内への定着意識
- ・就職・進学を希望する地域
- ・本県の将来について希望すること

7 調査結果

別紙「高校生アンケート調査結果（速報）」のとおり。

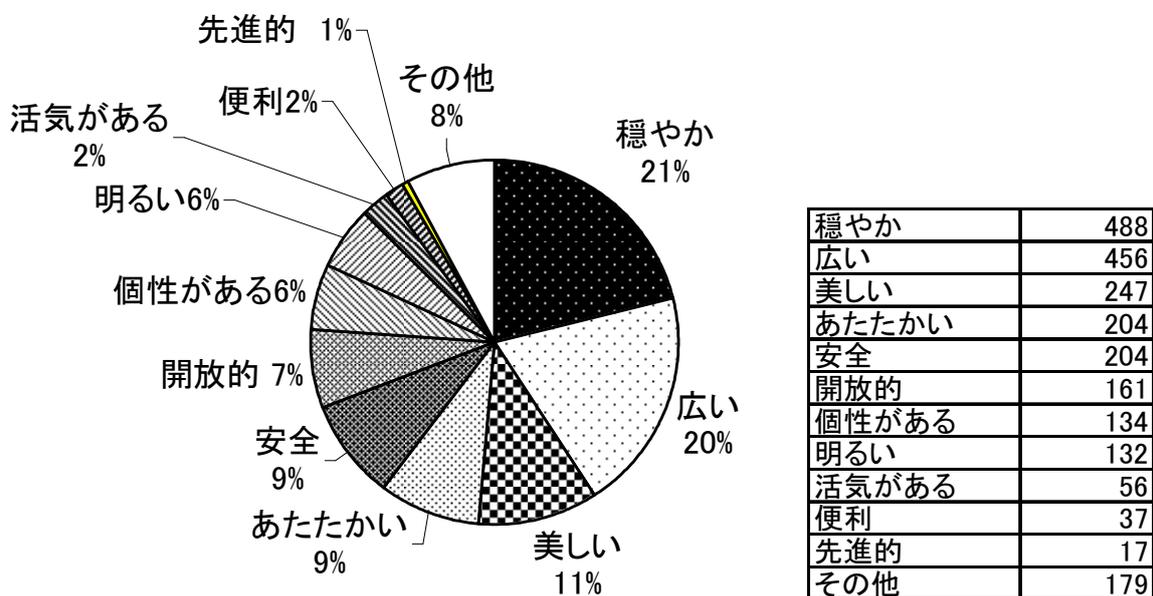
なお、詳細は「大学生アンケート調査結果」とともに次回部会において公表する。

8 調査結果の概要

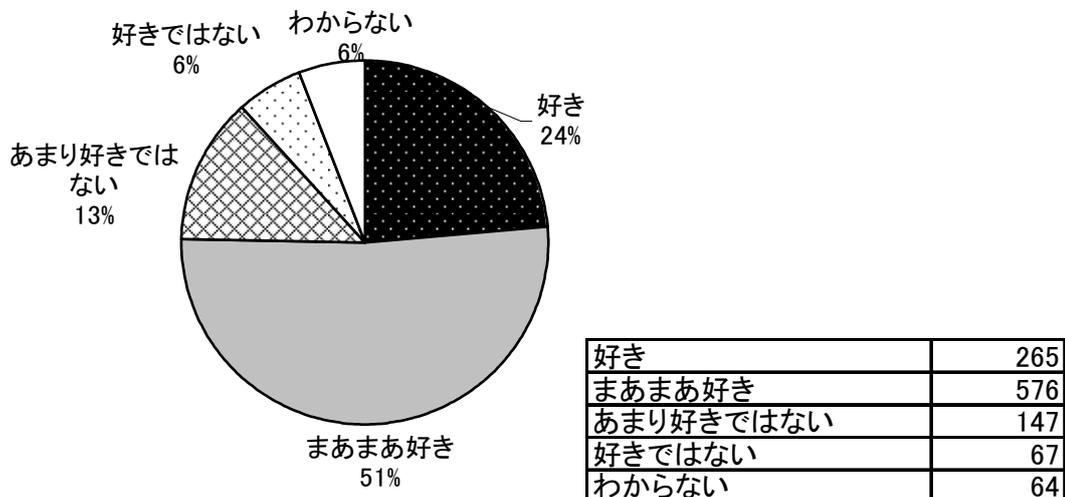
- ・本県について、「穏やか」、「広い」、「美しい」、「あたたかい」、「安全」といったイメージを持っている。
- ・今住んでいる地域について、約8割が「好き」、「まあまあ好き」という意識を持っている。

- ・一方、本県に将来住みたいかということについては、「ずっと住みたい」、「一度県外へ出て将来は福島県に戻ってきたい」が約半数となる。また、約2割が「住みたくない」と回答している。
- ・住みたくない理由としては、「希望する就職先、進学先がない」、「魅力あるイベント、施設が少ない」、「日常の買い物、通勤、通学など生活が不便だから」、「市街地に活気がない」がほぼ同数である。
- ・就職、進学を希望する地域は、「福島県内」が約3割で、県外への希望が5割となっている。その中でも、特に「南関東地域」への希望が多い。
- ・本県がどのような県になってほしいかということについては、意見が分かれた。

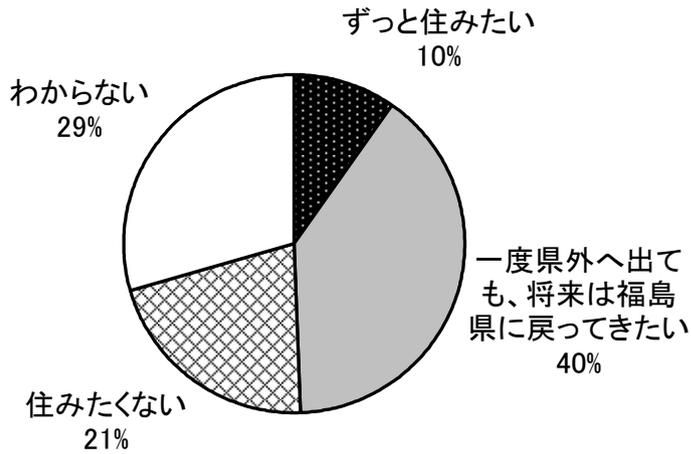
問 「現在の福島県」のイメージとして、どのようなことを思い浮かべますか。(複数回答可)



問 今住んでいる（県外居住の場合は、通学している）地域についてどのようなイメージを持っていますか。

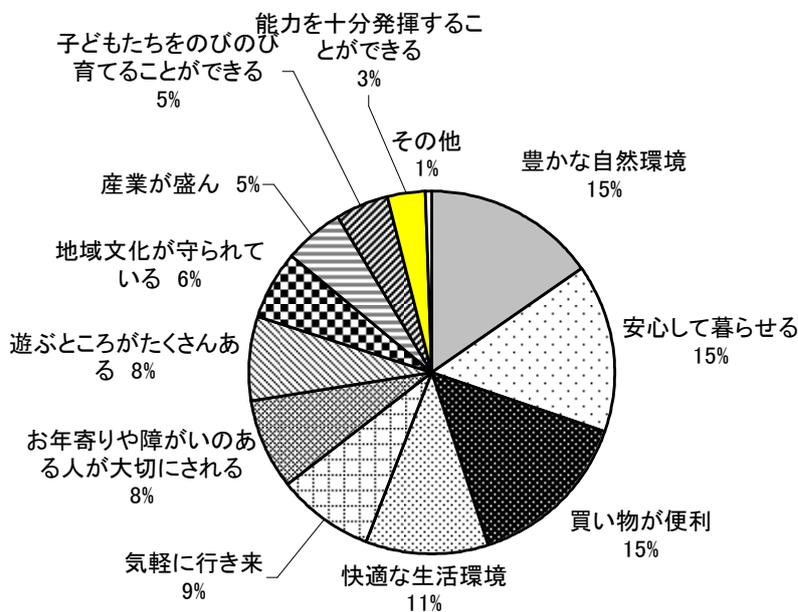


問 福島県に将来住みたいと思いますか。



ずっと住みたい	109
一度県外へ出て、将来は福島県に戻ってきたい	448
住みたくない	239
わからない	330

問 これから福島県がどのような県になってほしいですか。(3つ選択)



豊かな自然環境が守られている県	503
災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる県	502
買い物が便利で、市街地に活気のある県	485
快適な生活環境の中で暮らせる県	363
道路や鉄道などの交通が整備され、どこにでも気軽に行き来できる県	285
福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいのある人が大切にされる県	258
若者が多く、遊ぶところがたくさんある県	254
祭りや伝統芸能などの地域文化が守られている県	198
産業が盛んで、働く場に恵まれている県	178
教育環境が整い、子どもたちをのびのび育てることができる県	154
自分の能力を十分発揮することができる県	111
その他	20